

「子どもが生き生きと学ぶ生活科」  
～地域とのかかわりを生かした活動を通して～

生活科の学習は、子どもたちが地域の身近な人々、社会及び自然に直接働きかけ、また働き返されるという双方向の活動をめぐって展開される。見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなど直接対象にかかわる活動や体験は、子どもたちの心を揺さぶり気づきを深め、他の人に伝えたいという気持ちを育む。

子どもたちの興味や関心、思いを生かしながら、対象に直接働きかける具体的な活動や体験を仕組むことで、気づきを促し、さらに「見付ける」「比べる」「試す」「たとえる」「見通す」「工夫する」など多様な学習へと活動を広げ、生き生きと学ぶことができるのではないかと考えこのテーマを設定した。

I 研究の内容

1. 実践紹介

日々の授業について実践を紹介し合い、授業に生かす。  
地域とのかかわりを生かした活動について学び合う。

2. 研究授業

第2学年 「わたしの すてきが かがやく」  
授業者 祝小学校 赤荻美弥 先生

今回の授業は、自分自身を見つめることを通して、身近な人の支えについて考え、自分のよさや友達のよさに気づき意欲的に生活できることを目標に行った。自己肯定感の低い児童が多いという実態から「友達のすてきカード」を書き、交流する活動を設定した。入学してから今までの活動の様子をスライドで振り返る活動から友達のよさに気づくようにする、よさを書く紙を色分けし、よさを書く視点を子ども達に明示するなど教師の細かな手立てがされた授業であった。交流の場面では、自然と拍手が起こるなど学級づくりがきちんとなされていて子ども達から「もっと書きたい」と意欲的な言葉が発せられる授業であった。いろいろな地域から入学してくる子ども達が2年間で作りあげてきた関係を生かして授業を組み立てていくことが重要であることを確認した。他者と関わる活動を繰り返して設定することで子ども達の気づきがより深まることを改めて確認できた。

## Ⅱ 成果と課題

### 1. 成果

- ・各自の実践紹介では、同じ単元でも地域や学校の実態に合わせた工夫した授業が紹介されて、互いの実践に学ぶことが多かった。また、実践紹介をするために子ども達と行った活動をまとめたことで、自分がどんな活動をしてどういった成果や課題があったかを振り返ることもできた。
- ・実践以外にも生活科について情報交換を行うことができ、授業に生かすことができた。
- ・実際に使ったワークシートやまとめ方、児童の成果物など紹介し合うことで深く学ぶことができた。
- ・コロナ禍という状況ではあったが、他者とのかかわりを仕組む授業を通して、テーマである「子どもが生き生きと学ぶ生活科」に迫ることができた。

### 2. 課題

- ・今年度は、コロナ禍ということもあり校外での活動や地域の方々と触れ合いといった活動を制限せざるを得ない状況があった。身近な人々、社会、自然に直接働きかけ、また働き返されるという生活科の双方向の活動を今後どのように仕組んでいくかを探っていく必要がある。
- ・タブレットの活用や思考ツールについての学習など子ども達が主体的に学習に取り組める手立ての研究に取り組んでいけるとよい。
- ・少人数の部会ならではの良さとして、和やかな雰囲気の中で互いの悩みを共有したりアドバイスをしたりすることで学びが深まった。総合的な学習や理科、社会につながる生活科の学習を他学年の教師と共に研究していくことの必要性も感じた。

( 部長 武井 美奈子)